

第 108 回古民家歴史部会歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ・第 3 回」

ふじやま公園古民家歴史部会・長谷川記

平成 28 年 6 月 1 日(水)

「品川宿 2」

*集合：(京急)上大岡駅(改札口) 8 時 50 分厳守同時出発(今回も早い時間です。)

(1)行程：下記「探訪先」と同じ。

(2)食事場所：自由行動

(3)探訪先：「神奈川の宿場を歩く」、「東海道五十三次ハンドブック」等を参考にした。
(京急)上大岡駅から一青物横丁駅下車・スタート

- ① 鮫洲八幡神社：江戸時代、御林明神とか、鮫洲明神と呼ばれ、御林村(現東大井)の鎮守。創建は不明確だが、祭神は誉田別尊(ほんだわけのみこと)など四柱だ。この辺り一帯を御林村(幕府所有の雑木林を開発して村ができた)とか、沖に漂う大鮫の死体の腹の中から木彫りの観音像が出てきて、これを祀ったため「鮫洲」と呼ばれたとも伝わっている。
- ② 北浜川児童遊園・坂本龍馬像：当時この地に土佐藩品川下屋敷があり、19 歳の坂本龍馬も剣術修業に来ていたが、ペリー来航のため、屋敷内の浜川砲台で沿岸警備を命ぜられた。この像は、「20 歳の龍馬」として平成 22 年に作られた 2 代目の像。
- ③ 浜川橋(別名「涙橋」)：立会川に架かるこの橋は、俗称「涙橋」と呼ばれた。鈴ヶ森で処刑される罪人の多くは、江戸府内から裸馬に乗せられ、御仕置き場まで護送されたが、その時親族の多くは、この橋の所まで見送り、涙ながらに別れを告げたといわれる。
- ④ 天祖諏訪神社：濱川総鎮守・東海七福神の福祿寿。祭神は天照大御神(あまてらすおおみかみ)他。
- ⑤ 鈴ヶ森刑場跡：小塚原(荒川区)と並ぶ江戸の処刑場で、ここで処刑された人の数は数万とも 20 万ともいわれるが、歌舞伎や講談などで有名なのは、丸橋忠弥・白井権八・八百屋お七・天一坊など。すぐそばの大経寺が受刑者の供養を行っている。
- ⑥ 大経寺：刑場ができたのと相前後して、隣接地に堂宇が建てられ、密かに受刑者の供養が行われて来た。この寺は今日まで檀家を持つことなく、受刑者の供養を続けている。

⑦ 磐井神社：延喜式内の古社で、別名鈴ヶ森八幡とも呼ばれ、祭神は応神天皇・大己貴命（おおなむちのみこと）、ほかの3柱である。天正18年(1,590)、徳川家康が江戸下向の際に参詣し、ここを幕府の祈願所とした。

⑧ 梅屋敷跡(公園)：かつてこの付近は、気候や土質が梅の木に適していたのか、農家は副業として梅干を作って売っていた。文政(1,818~30)の初め頃、「和中散」という道中常備菓を商っていた山本忠左衛門の倅・久三郎が大規模な梅園と休み茶屋を設けていて、広重の「名所江戸百景」に描かれ有名になったが、その後、京浜国道と京急線電車などの工事で園地が縮小され、往時の姿を失った。

——(京急)蒲田駅 (駅近くで昼食) ・ 食事は自由行動。

⑨ 六郷神社：六郷一円の総鎮守。祭神は応神天皇。社伝によれば源頼義・義家父子が奥州遠征時、石清水八幡に戦勝を祈願し、凱旋後その分霊を勧請したのが創建とされる。

天正19年(1,591)徳川家康は、神領として18石を寄進する朱印状を与え、六郷大橋の竣工に当たっては、当社の御神輿をもって渡り初め式を行ったといわれる。

⑩ 北野天神：祭神：菅原道真、寿永元年(1,182)頼朝東征に際し、神徳により当社建立。江戸時代、8代将軍吉宗の乗馬暴走を、この天神が止めたという伝説で、別名「止め天神」。

また、境内に「六郷の渡し場碑」がある。

この後、「新六郷橋」を渡り、川崎へ。

——(京急)川崎駅ゴール(解散)

以上

東海道歴史探訪3

青物横丁～川崎

2016.6.1

全行程 約12km



例大祭は、8月14日近くの金・土・日の3日間行われます。

当神社の鳥居は低くて狭いため、宮出し宮納めするときだけは専用の短い担ぎ棒と交換するなど、苦勞して旧東海道に繰り出しています。

境内にある狛犬に注目！

① 鮫洲神社

② 坂本龍馬像



立会川は坂本竜馬のゆかりの地。ペリー来航に対して土佐藩がこの地に砲台を作った時に、坂本龍馬がその警護の一員だったと言われています。

⑥ 大経寺

受刑諸霊の回向供養を目的で建立されました。

⑤ 鈴ヶ森刑場跡



鈴ヶ森刑場は、1654年（慶安4年）に開設され、1871年（明治4年）の閉鎖までに10～20万人の人々がここで処刑された。死刑の方法は様々であり、磔にされて串刺し、火炙り、斬首などなど残酷極まりない事がこの刑場でおこなわれてきたのである。

至品川

スタート

品川寺 (前回訪問)
海運寺 (前回訪問)



15

15

15

15

15

318

15

15

15

15

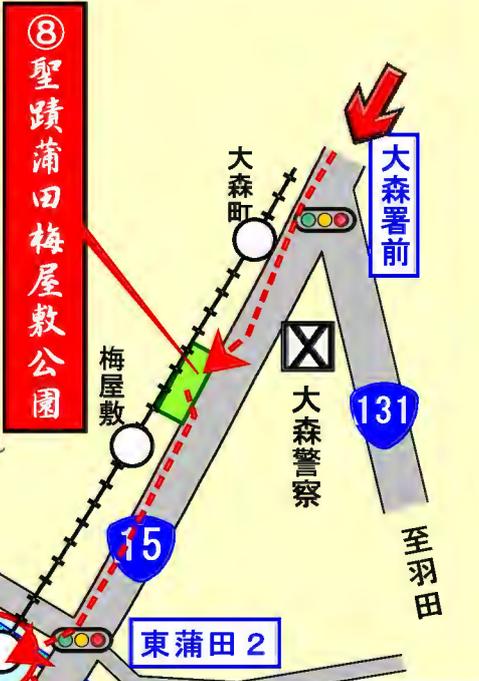
⑦ 磐井神社



当社社名の由来となったこの井戸、「磐井」と呼ばれる古井で、東海道往来の旅人に利用され、霊水又は薬水と称されて古来有名である。この井戸水を飲むと、心正しければ清水、心邪ならば塩水、という伝説を昔から伝えている。

dimson

梅屋敷公園の歴史は江戸時代に和中散（道中の常備薬）の売薬所の敷地3000坪に梅の木数百本と花木を植え、東海道の休み茶屋を作ったことに始まります。当時は梅の名所として多くの人で賑わい、また明治時代になってからは、明治天皇がたいそうに気に入られ、9度も通よわれたことから、「聖蹟」の名がつけられています。



第8代将軍徳川吉宗の乗馬が暴走した際に落馬を止めたことから、東海道を往来する武士から「落馬止め天神」と称されるようになった。
 天満宮本来の学問のみならず、災いや痛みを止め、「落ちない」ことを祈願する者の参拝を受ける。毎月25日を縁日とし、この日には、木馬にまたがり祈願する江戸時代から伝わる神事が執り行われている。

⑩ 北野天神

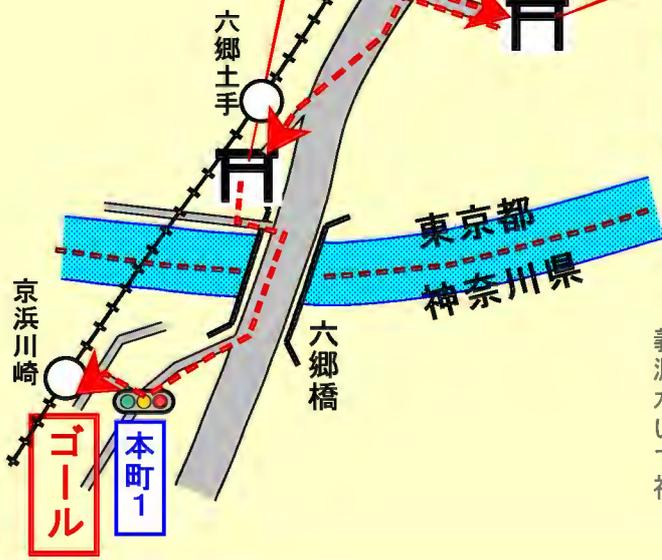


1920~1936

⑨ 六郷神社

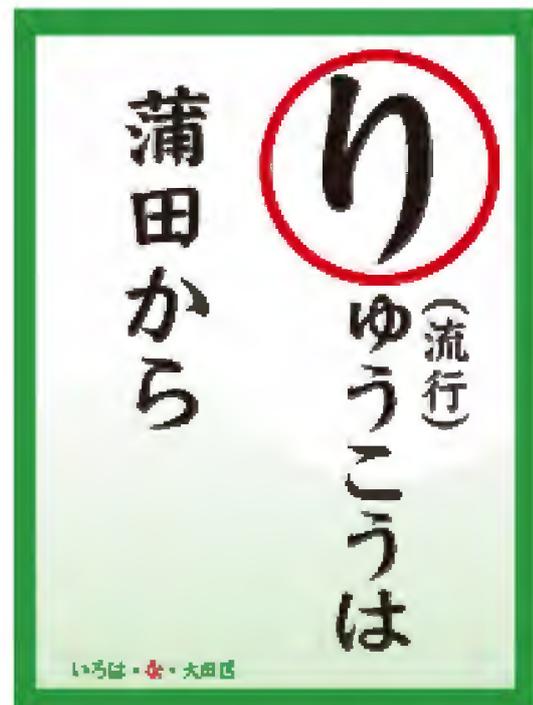


社伝によれば天喜5年（1057）源頼義、義家の父子が、この地の大杉の梢高く源氏の白旗をかかげて軍勢をつのり、石清水八幡に武運長久を祈ったところ、土気大いに奮い、前九年の役に勝利をおさめたので、凱旋後、その分霊を勧請したのが、当社の創建と伝えられます。





松竹キネマ蒲田撮影所



かつて将軍の落馬を止めた天神様の御加護にあやかるもので、等身大の木馬をお社の中にすえて、願い事が決して落ちません様に木馬にまたがり祈願する神事が、毎月25日の縁日にかぎり行われています。

どなたでも木馬にまたがり祈願することができます。

今年の祭礼

六月三日～五日

